

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会 176号

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認
毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



もくじ
目次

まつののうえん 松野農園とつながる、ひろがる、つづいてゆく	2
こ 子どもの力	3
さあ! 歌 ^{うた} って踊 ^{おど} って騒 ^{さわ} ごう~!	4
スタッフ子育 ^{こそだ} て日記 ^{にっき}	5
く 暮らしの場 ^ば とは	6
わたしたちの声 ^{こえ} をきいて!	7
はじめての旅行 ^{りょこう} ガイド・皆生温泉 ^{かいげおんせんりょこう} 旅行	8
NPO総会 ^{そうかい} & どんどん総会 ^{そうかい} を終えて ^お	9
どんどん新聞 ^{しんぶん} より	10
かつどう 活動のあと	12

まつののうえん 松野農園とつながる、ひろがる、つづいてゆく

まつののうえん
松野農園ではコロナ禍以前に、小学生向けの英語交流活動（English Park “Sunny Smile”）をおこなっていました。その頃、統廃合になる西生野小学校（現生野未来学園）の畑が工事中により縮小されるため、野菜を栽培できる場所を探しておられ、主催されていた方のつながりで、松野農園に声がかかりました。当初、松野農園だけではなく、ネットワークしていた「はたけもり」や「結びファーム」にも声をかけさせていただこうと考えていました。しかし、学校側もはじめてのことということもあって、まずは一か所（松野農園）からというスタートになりました。

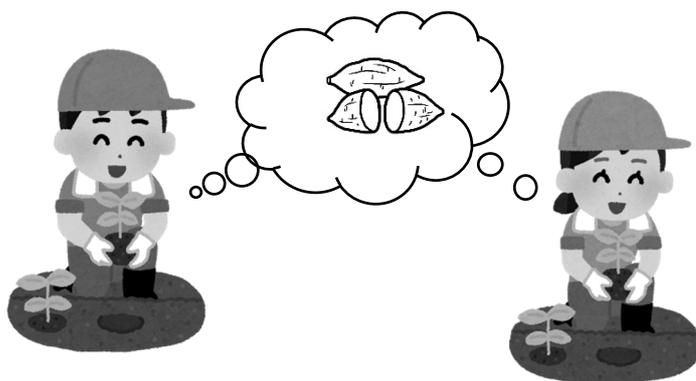
昨年、コロナにより校外活動が制限されていたため、子どもたちに訪問してもらう機会は少なかったのですが、1、2年生あわせて40名以上の小学生全員に、立派に育ったサツマイモを収穫してもらうことができました。収穫したサツマイモはそれぞれの家庭に持ち帰って調理され、あじわっていただけたそうです。また、サツマイモのツルも提供して、リースをつくったり、ブランコや大縄にしたりなど活用していただき、喜んでもらいました。

そういった実績から、今年も学校（生野未来学園）から声をかけていただきました。昨年は1、2年生合同での活動でしたが、今年は6月のはじめに2年生36名に訪問してもらい、学校側に用意してもらったサツマイモの苗を植えてもらいました。今回は、松野農園だけではなく、「はたけもり」にも参加していただき、「はたけもり」の畑にも植えていただきました。

児童数の減少により、統廃合・再編という環境に置かれているなかで、もしかすると不安に過ごしている子どもや保護者の方たちがいるかもしれません。でも、地域にはこれからの未来ある子どもたちをあたたかく見守る場所がたくさんあるということが、活動を通して子どもたちや保護者、学校に伝わればと願っています。

昨年のように立派に育って、収穫してもらえる日がくるのが今から楽しみです。

（トオル・Y）



子どもの力

大人も子どもも育ちあう場として活動している“みらくるクラブ”で二上山登山に行きました。みらくるクラブは「小学生までの子どもとその保護者」が対象で中学生以降はボランティアとして参加をお願いしています。みらくる ゆーすとを利用している子たちを中心に数名の子がボランティアで活躍してくれ、小さい子どもたちからは「お兄ちゃ〜ん」と慕われています。ボランティアの子たちも事前に担当する子の情報を職員から聞き、好きそうなものを用意したり、どんなことに気を付けないといけないか考えたりと、とても熱心です。そんなボランティアスタッフとして高校1年生のKくんが初めて活動してくれました。彼とは小学生のころからのお付き合いです。人の気持ちを察することや自分の感情を上手に伝えることが難しくトラブルになることも多かったKくん。登山をすれば暑さと疲れから、すれ違う人に「こんにちは」と挨拶されると「うるさい!ばばあ!」と返し、山頂が見えずイライラして走って逆走しますます疲れ、年下の子に石を投げつけるKくんを必死になだめながら下山した思い出があります。そんなKくんが今回担当したのは4歳の男の子です。甘えん坊で、普段歩きなれていないので出発から間もなくダントツの最後尾になりました。Kくんもしんどいだろうな、途中で担当を大人に交代したほうが良いかな、と思いながら様子をうかがっていたのですが、Kくんは腰をかがめ手をつなぎ「がんばろう。」と声をかけながら少しずつ登っています。それでもなかなかペースは上がりず他の子から大きく離されてしまったので、ショートカットしようかと話しかけに行ったのですが、Kくんは「みんな待てるで。もうちょっとや。」と励まし続け、みんなと同じ山道を歩き山頂で合流することが出来ました。下山でも最後尾だったのですが最後まで手をつなぎ一緒に歩いてくれました。

解散後に「疲れた。腰が痛い。次は違う子の担当がいい。」と言ったKくん。きっとみんなでおしゃべりしながら登っている他のボランティアたちと一緒に活動したかったでしょう。体力も気力も限界に近かったかも知れません。それでも解散するまでは愚痴もこぼさず、担当の子のペースを尊重しながら付き合ってくれたKくん。他のボランティアの子たちも担当の子を背負って鬼ごっこをしてくれたり、喜んでくれるかと思ってとアフロのかつらをかぶってくれたりと大活躍!大人気!

まだ10代の子たちですが、みんな色々な経験を積む中で悩んだり考えたりを繰り返したのかも知れません。人を思いやる豊かな気持ちを持ち、それを行動にうつせる彼らに感動し力をもらった一日でした。

(ユカ・S)

さあ！歌って踊って騒ごう～！
 （表現する楽しさ、スポットを浴びる嬉しさの中へ…）

ある日、「NPO総会用に予約していた区民センターの小ホールが、事情により自由に使えることになったけど、何かに使いますか？」と連絡があり、私は「やります！使いたいです！」と直ぐに答えました。私は、毎週金曜日の午後から「ダンスコンサート」というプログラムを担当しています。昔もダンスを担当していたのですが、その時はダンスというイメージにとらわれ過ぎて、難易度のある動きが多くてうまくいきませんでした。ですが自分も年齢を重ね、この仕事に長く携わるようになり、「ダンスって音にのって楽しんだらいいんじゃない？自由でいいんじゃない？」と思えるようになると、振り考えた時にメンバーさんの動きを見て「それいいですね！その動き入れてみよう！」とやってみたり、繰り返しの動きがある方が動きやすく覚えやすい事がわかりました。そして自分が楽しくやっていると、自然に笑顔でその空間が楽しい空気になり、良い相乗効果に繋がることもわかりました。「いつか発表の場があればいいな」と思っていたのです。「やりたい！楽しそう！」と思ったものの、いくらお金がかかるのか、会場の場所もわからないので、まずはメンバーさんと一緒に会場を見学することにしました。



いつもプログラムに参加しているKさんも見学に行きました。Kさんはある曲にハマり、ハーモニカを買って毎週毎週練習していました。見学に行くと「デビューまだ？」と聞かれ、それぐらい楽しみにされていたのです。見学して細かくお金がかかる事や舞台の雰囲気もわかり、メンバーさんの動線を考えるのにも良かったです。

ここ何年かコロナで表現する場がなく、せつかくの楽しいイベントなのでダンスチームだけではもったいないし、色んな人が楽しめる方がいいし、でもコロナの感染者はまだ収まった訳ではない…と悩みました。絵画アートチームから作品を飾れないか？と要望がありました。アートチームも作品を見てもらう機会がこのコロナ禍で奪われていたのです。見学に行った時に相談すると「パネルがあるのでそこに貼るのはどうですか？」と言われ、パネルも予算に入れてアートチームも作品展で参加できることになりました。

ダンスチームはコンサートの練習に励み、メンバーさんもいつもと違う何かを感じ、張り切って練習されていました。コロナ禍でどこか自然と我慢する状況が続き、表現したり、注目を浴びたりする状況が無い生活で、メンバーさん達も待ち望んでいたのだとわかりました。何か動くとメンバーさんも気持ちが動くんです！

当日は会場全体で一体化出来るように、舞台に出ない人も少し仮装してもらい、みんなが同じ空間で楽しみながら参加してもらいました。

幕が開き、舞台からみんなの笑顔が見えホッとしたのを覚えています。客席からもダンスの動きを真似て一緒にしてくれたり、レスポンスを返してくれたり、飛び入り参加者がいたり。Kさんもデビュー日を無事迎えられました。とても楽しい時間と空気が流れました。

後日、『『ダンスコンサート面白かった』って聞いたよ』と声をかけられたり、メンバーから「次これしよう」と意見が出たことに感動しました。この動き出したエネルギー・気持ちを今回だけに留まらず次に活かし繋いで絶やさないことが、私達の会としての未来だと改めて思いました。

これからもコロナに負けず楽しいことをみんなで一緒にやっぺいこう！

(サトカ・N)



スタッフ子育て日記

私は、昨年6月に第一子を出産しました。私の体のこと、コロナ禍での妊婦生活や出産、とにかく初めてのことはばかりでとても不安だったことをよく覚えています。出産後もコロナ禍の影響や出産時の感染症で夫はもちろん、私も赤ちゃんに会えない期間があり、1日一緒に過ごす事ができたのは退院の日でした。初めて自分の腕の中で我が子を抱いた時の嬉しさと、不安でドキドキした気持ちは忘れることができません。

自宅に戻り子育てがスタートし、新生児に慣れないことはばかりでした。赤ちゃんの生活リズムに合わせた生活は寝不足の日々。それでも母親としての自覚を我が子を通して芽生えさせてもらえることに嬉しさもありました。

子どもが生まれ1年が経ち、今はよちよち歩きですが歩くようになりました。元気に動きまわる姿や笑顔を見せてくれる子どもに毎日癒される日々です。これからもこんな何気ない時間を大切にしていきたいと思ひます。

(ミホ・A)



暮らしの場とは・・・

厚生労働省が検討しているグループホームの再編案に反対する院内集会在5月18日、衆議院第二議員会館で行われました。当会からは去年署名を提出に行ったTさんと、「私も行くわ」とKさんが参加され、私も同行させていただきました。

今回の再編案は、グループホームの入居に期限を設ける「通過型グループホーム」を新たに設けようとするものです。参加された当事者の方々は「住む所が訓練の場になるのは嫌だ。」「私の事を勝手に決めないで。」「一人暮らしをするタイミングは自分で決める。」と意見されました。

会場で当事者の意見を聞いていて、一人暮らしという目標を実現する為の訓練をグループホームでおこなうというのは、当事者から安心できる場所を奪う事に繋がるのでは、と思いました。もし自分が暮らしている場所で「あなたは数年後に一人暮らしをします。なので今日から、その練習をします。」と言われたとしたら、「それを何で私じゃなくてあなたが決めるんですか？」と不満を抱きます。

私自身は、今回のような集会には初めて参加したので緊張しました。TさんとKさんも緊張はしていた様ですが意見をしっかりと伝える事ができ、言い終わった後は、ほっとした表情をされていました。

日々の支援の中で、メンバーさんが安心して暮らすなあと考える環境をつくらせているかと聞かれると自信はありません。ですが日常の中で行われる活動や食事、買い物、一人暮らしに関しても自分の意思で決めて欲しいと思っています。個々のライフスタイルに合った暮らし方があり、また一人暮らしに向けて準備していても直前で不安になり、やっぱり止めたいという事もあると思います。「通過型グループホーム」という枠の中に入ってしまうと当事者の気持ちに寄り添った柔軟な対応が出来なくなるのではと不安を感じる点が多いです。



(ワカナ・K)

わたしたちの声をきいて！

わたしは、はじめはグループホームで暮らししていました。
今は、ヘルパーをつかいながらひとり暮らしをしています。
引っ越しの時は、グループホームのスタッフが手伝ってくれました。
ひとり暮らしは楽しいけど不安もあります。
またグループホームにもどるかもしれないし、
ひとり暮らしを続けるかもしれないです。
ひとりでもいいけど、悩むから、話を聞いてくれるスタッフや友達がほしいです。
(スウワ・K)

わたしは20歳のときに家を出て、グループホームで18年暮らししています。
4人で暮らししています。毎日仕事に行って、友達もできました。
グループホームはみんなとおしゃべりをするのが楽しいです。
ヘルパーさんと料理をしたり、買い物に行ったりしています。
ヘルパーが来なくなったら困ります。
これからもグループホームで暮らしたいです。
(リズム・T)

上の発言文は、5月18日に行われたグループホームの再編案に反対する院内集会で
発言されたお二人の文章です。





はじめての旅行ガイド・皆生温泉

7月7日に、1泊2日ではじめての旅行ガイドへ行ってきました。当日までに新幹線や宿泊先の予約や、観光場所を決めて予算を立てたり、事前に決めておかなければならないことが沢山あることがわかりました。何時にどこへ行って何をするのか、予定が決まっていることでメンバーさん（Kさん、Yさん）も安心して旅行が楽しめるのでしょね。

旅行当日、新大阪駅までの道のりで、Kさんも「楽しみで寝られへんかった」と話していました。タクシー、新幹線、特急で約4時間かけて米子へ。米子駅へ到着すると、いよいよ観光スタートです。現地ではタクシーで観光地をまわったため、体の疲労を気にすることなく楽しむことができました。『天空リフト』をKさんは少し怖がっていましたが、ドキドキ感を楽しめたのか、帰りのタクシーでは楽しそうにリフトのことを話していました。

宿泊先は『皆生菊乃家』。客室から眺めることのできる海を見ながらお茶を飲み、のんびりと過ごします。温泉で心と体を休めて、夕食の時間に。豪華料理が出てきてビックリ。カニやのどぐろを美味しくいただきました。大根を、ゲゲゲの鬼太郎に登場する一反木綿の形に薄切りした可愛い盛り付けもありました。食後はカラオケを楽しんで、夜はぐっすり就寝です。

2日目は『トム・ソーヤ牧場』でヤギやモルモットにエサやりをして動物と触れ合いました。お土産屋では、誰に何を買って帰るか、即決するYさんと、迷うのが止まらないKさん。時間内に無事に買うことができ、Kさんもどこか満足そうにしていました。雨は降りましたが、小雨だったため、強い日差しを浴びることなく観光できました。

旅行は楽しんで疲れて帰ってくるのが醍醐味。旅行から帰るとやはりYさんも疲れたようでしたが、久しぶりの旅行、のんびりと存分に楽しむことができたのではないのでしょうか。

今回、貴重な1泊2日旅行に同行させていただいたことで、遠出の楽しさをしみじみと実感することができました。安心して外出ができるように感染拡大が落ち着くことを切に願います。

(キズナ・T)



そうかい とうじつ ねん かいさい NPO総会&どんだん総会を終えて

2022年5月30日(月)に東成区民センター6階小ホールにて、第23回定時総会をおこないました。会員が集まって開催するのは、3年ぶりです。当日は111名の出席(うち委任状出席者は33名)で、定款に定める総会として進めることができました。

今回も、写真をスクリーンに映して事業報告や事業計画の説明をおこないました。作業所での内職作業やストレッチ体操などの日中活動、グループホームでの暮らし、知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座開講など、2021年度の活動について報告し、1年間を振り返りました。2022年度事業計画では、4月に開所した作業所の従たる事業所「BOMBA」を、当事者活動の新たな拠点として活用していくこと、コロナウイルスへの感染に気を付けながら、それぞれの活動を進めていくことを報告しました。

後半は、自立生活センター・どんだんの総会です。こちらも3年ぶりの開催となりました。今回もメンバーたちは、それぞれ役割を決め、報告や発表の練習をおこない総会に挑みました。2021年度も、回数は減りましたが、講演会や学校の授業で、自分の暮らしや趣味・仕事の話をしました。ピープルファースト兵庫大会にも、オンラインで参加しました。交渉では、自分たちの思いを届けるため勉強会をおこない、当日もしっかり発言しました。2022年度の目標は、『ヘルパーさんほしい!ピラ配りに行こう!』『コロナに負けないようにがんばろう!』『ピープルファースト北海道大会に行きます!』です。コロナに負けることなく、どんだんの活動が広がる1年にしたいと思います。最後に、参加者みなで恒例の【どんだんの歌】をうたい、総会は幕を閉じました。

『きみがここにいる ぼくもここにいる いろんなことがあるけど

ちからをあわせりゃ きっとだいじょうぶ』【どんだんの歌】より

いつも温かいご支援・ご協力、本当にありがとうございます。コロナ禍でこれまでと同じようにできないことも多々ありますが、できることを探して、できるときを見逃さず、活動していきたいと思えます。2022年度も認定NPO法人として、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わり、より地域の方々と連携して、活動を進めていきたいです。

(ヨシミ・I)

どんどん新聞 No.194 から一部抜粋しています



発行日 2022年 4月 22日
発行所 自立生活センター・どんどん
大阪府生野区田島1-10-30
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



関西大学 関西大学 関西大学
関西大学の講演に行ってきました！

日時: 2021年12月9日(木) 場所: 関西大学 堺キャンパス

関西大学の講演に、YさんとNさんに行ってきました。

Nさんはこの日を楽しみにしていて、待合せより1時間も早く大学に到着していました。

講演前の打ち合わせで、大学の先生と再会しました。先生は、20年前に出発のなかまの会で学生ヘルパーとして活動されていました。

いよいよ講演が始まりました。Nさんは、最初はとても張り切って話していましたが、だんだん疲れてしまいました。Yさんは、「私が乗った観覧車はどこでしょう？」というクイズを出し、盛り上がりました。「ネイルかわいい！」と褒められ、嬉しそうでした。

この日は6つの事業所、12人の当事者が参加しており、他事業所のメンバーとも交流することができました。また参加したいです。



2021年度上半期どんづろをしました。

日時:2021年10月5日(火) 場所:ととの木1階

会議が始まると副代表のKさんが「引退します」と宣言し、会議も休もうとしていました。「引退するなら副代表はどうするの?」と聞かれると「やります」と言ったので、みんなから「なんでや!」と怒られてしまいました。

上半期の振り返りでは、対府交渉とピープルファーストはオンラインだとわかりにくかったという意見がたくさんでていました。

勉強会の話ではHさんが認知症について知っていることを話してくれてそれを聞いたSさんが「お母さんにあんた誰って言われたらショックやわ」と言っていました。認知症の勉強会をしたらどうかという意見がでると、Hさんは「難しいやん!」と言いましたが、「難しいから勉強会をしよう」ということになりました。

会議中に“生野区に大きいグループホームが建てられてしまった”という話を聞き、「なんでそんなん作ったんや!?’とみんなで怒りました。交渉でいつも大規模グループホームの反対を訴えていたので、黙ってはいられないと見学に行くことになりました。

下半期もいろいろなことに負けないようにがんばっていきます!

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください!

- ◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方
会費 3,000円+通信送料 300円 計 3,300円
- ◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方
寄付金 年間 3,000円以上
- ★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。認定NPO法人として続けていくためには、年間 3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしくお願いたします。
- ◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080
特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※通信の郵送がご不要の方はご一報ください。

活動のあと

5/6	グループホームスタッフ全体会議 虐待防止委員会(内部委員会)	6/29	執行委員会
5/7	みらくる ゆーすと勉強会(ストレスマネジメント) 内部研修(発達障害勉強会)	6/30	職員研修(新人研修①)/虐待防止委員会(内部委員会) どんだん講演(関西大学堺キャンパス)
5/9	生野区相談支援事業所連絡会役員会	7/1	グループホームスタッフ全体会議 ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】Eプロ ジェクト会議③(どんだん)
5/11	生野区学童期子ども支援連絡会役員会 生野区グループホーム連絡会世話人会	7/2	みらくる ゆーすと勉強会(スマホの使い方)
5/12	関西大学実習報告会	7/5	執行委員会/どんだん講演(手をつなぐ育成会)
5/13	出発通信発送	7/6	防災委員会/講演(京都芸術大学)
5/14	みらくる ゆーすと進路勉強会	7/7	生野区相談支援事業所連絡会役員会
5/15	ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】 Eプロジェクト会議①(どんだん) みらくるクラブ【ハイキング】(二上山)	7/7~8	皆生温泉旅行
5/18	グループホーム再編に対する緊急院内集會 生野区学童期子ども支援連絡会	7/9	内部研修(発達障害勉強会)
5/19	執行委員会	7/12	対府交渉総決起集會・デモ行進
5/20	理事会/求職者支援訓練介護職員初任者研修総合福祉 科(3/22~5/20)	7/13	生野区グループホーム連絡会(新人研修) 生野区学童期子ども支援連絡会役員会 生野区 NPO 連絡会総会・研修会
5/21	障大連大阪市ブロック会議	7/14	研修委員会/虐待防止委員会(内部委員会)
5/21	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	7/15	内部研修(新人研修②)
5/23	たびだちダンスコンサート	7/16	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会) 社会的処方 交流会(松野農園)
5/25	内部研修(生活介護職員研修) 生野区 NPO 連絡会役員会	7/19	防災委員会
5/26	生野区相談支援事業所連絡会	7/22	しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編】 Eプロジェクト会議(どんだん) 地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会 グループホーム再編に対する緊急行動ネットワーク会議
5/27	すきっぷヘルパー交流会/どろん 地域共生ケア生野推進委員会	7/24	ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編①】
5/28	みらくる ゆーすと進路勉強会	7/25~8/7	「idea vol.8」絵画展 出展 (奈良・ラスパ西大和)
5/29	内部研修(職員グッドスタート会議)	7/26	ジャマイカ報告会
5/30	NPO 法人出発のなかまの会総会/どんだん総会 法人後見学習会	7/27	内部研修(生活介護職員研修)/内部研修(新人研修③)
5/31	執行委員会/グループホーム再編に対する緊急行動ネ ットワーク会議	7/29	執行委員会
6/1	防災委員会/生野子育て社会化研究会	8/2	厚生労働省意見交換会
6/2	生野区相談支援事業所連絡会役員会	8/5	グループホームスタッフ全体会議/インターンシップ受入 開始(関西学院大学)
6/3	グループホームスタッフ全体会議 虐待防止委員会(内部委員会)	8/7	ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】Eプロ ジェクト会議④(どんだん)
6/4	内部研修(発達障害勉強会)	8/7	玉造黒門越瓜 ツルつなぎ交流会(松野農園)
6/5	はたけもり ジャガイモ収穫祭(松野農園)	8/9	しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【料理編】 Eプロジェクト会議(どんだん) 防災委員会/どんだん交渉勉強会
6/6	研修委員会	8/10~9/24	実習生受入(大阪公立大学)
6/6~7/8	実習生受入(四天王寺大学)	8/10	生野区グループホーム連絡会世話人会
6/7	生野区 NPO 連絡会役員会	8/11	「ご近所マルシェ」(松野農園)
6/8	生野区学童期子ども支援連絡会役員会/生野区グルー プホーム連絡会世話人会	8/16~9/16	実習生受入(関西大学)
6/9	ILP(自立生活プログラム)講座【おしやれ編】Eプロ ジェクト会議②(どんだん) 生野未来学園 サツマイモ植え付け(松野農園)	8/19	対府交渉①
6/11	みらくる ゆーすと勉強会(VJ 体験)	8/20	知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座① 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
6/15	生野区学童期子ども支援連絡会	8/21	知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座②
6/16	不登校・ひきこもり連絡会	8/24	対府交渉②/生野区 NPO 連絡会役員会
6/17	生野区相談支援事業所連絡会	8/26	地域共生ケア生野推進委員会役員会
6/18	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	8/27	知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座③
6/20	グループホーム再編に対する緊急行動ネットワーク会 議	8/30	執行委員会
6/22	どんだん講演(四天王寺大学)/生野区 NPO 連絡会研修		
6/24	どろん/地域共生ケア生野推進委員会役員会/障大連運 営委員会		
6/26	IKUNO サラダボウル・プロジェクト 生野の“日本語指導が必要な”子ども白書 報告会参加(松野農園)		

編集後記

今年の夏も、うだるような暑さでした。暑すぎるせいでしょうかベランダで育てている野菜が全く育ちません。野菜も音をあげているようです。夏が終わりに秋になりました。夏バテ解消に食欲の秋を楽しんでいきたいと思います。
(ジロウ・K)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
ホームページ https://www.tabidati.jp/ 750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4階

頒価百円